

令和7年度 熊谷恒子記念館

かなの美展「西行の『山家集』 熊谷恒子が親しんだ書」の開催について

■展覧会内容

熊谷恒子記念館では、かなの美展を開催します。本展では、平安時代の僧侶・西行（さいぎょう 1118～1190）が詠んだ和歌集『山家集（さんかしゅう）』を中心に、恒子が親しんだ書を紹介します。西行は、鳥羽天皇（1103～1156）の武士として、奉仕していました。1140年に西行法師と号して出家した後に日本各地を旅し、晩年には大阪・弘川寺に庵居して1190年に入寂しました。西行について恒子は、「鳥羽上皇に仕へた北面の武士が、出家して西行また圓位ともいはれ歌人として名高い」（註1）と評価しています。また、「雨月物語の中に出てくる西行は行ひ澄した高僧の様に思はれる」（註2）と述べています。

恒子は、西行が書写したと伝わる『一條攝政集（いちじょうせつしょうしゅう）』を臨書し、西行の和歌や書に関心を持ちました。『一條攝政集』は、平安時代の一条摂政・藤原伊尹（ふじわら これただ：924～972）の歌集で、歌物語としても注目されています。恒子は、『一條攝政集』の筆跡について「文字も大きく暢々（のびのび）としています。窮屈なものでないだけに親しみ深い書風」（註3）であると称賛しています。西行の『山家集』を重宝していた恒子は、『一條攝政集』をくり返し臨書し、西行の歌風にあわせた流暢な書を追求し、多くの作品を制作しました。

本展では、聖徳太子信仰の三重・福王山の毘沙門堂を詣で、麓の梅ヶ丘に庵を設けた際に詠んだ『山家集』の和歌を表現した《伊勢のにし》（1934年頃）や、『新古今和歌集』において西行が摂津、現在の大阪・難波への追憶を詠った和歌にもとづいた《つのくにの》（1965年）、奈良・吉野山に到来する春の情景を称えた『山家集』の和歌を題材とした《よしの山》（1985年）などを展示します。西行の和歌と書に親しんできた恒子の作品をお楽しみください。

註

- 1 熊谷恒子「假名學習法（一）」『書道』1937年1月、泰東書道院
- 2 熊谷恒子「遁世者」『書壇新報』1938年8月、書壇新報社
- 3 熊谷恒子『書道 かな—基礎から創作まで—』1978年、マコー社

■会期

2025年4月19日（土）～2025年7月6日（日）

休館日：月曜日（月曜が祝日の場合は、その翌日が休館）

開館時間：9：00～16：30（入館は16：00まで）

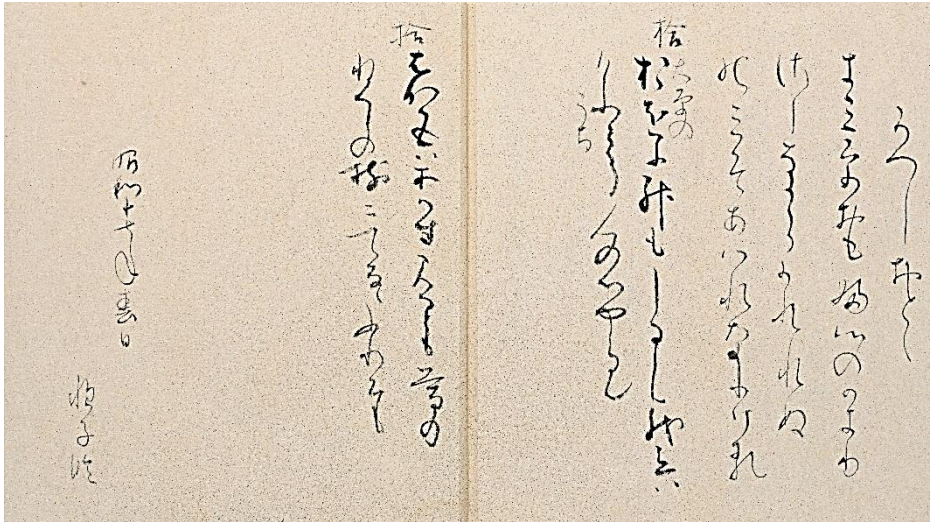
入館料：一般100円、中学生以下50円

※65歳以上（要証明）と未就学児及び障がい者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料

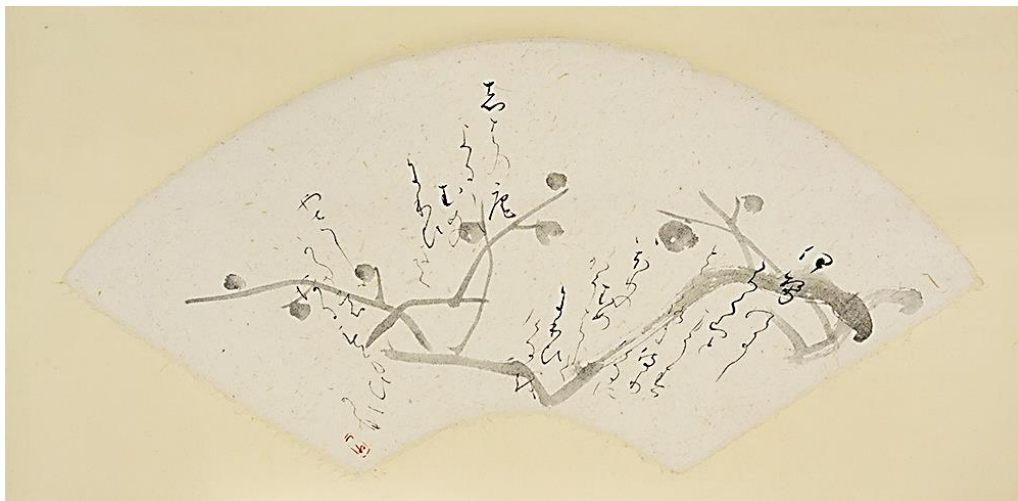
■会場

大田区立熊谷恒子記念館 大田区南馬込4-5-15（交通案内は3ページをご覧ください。）

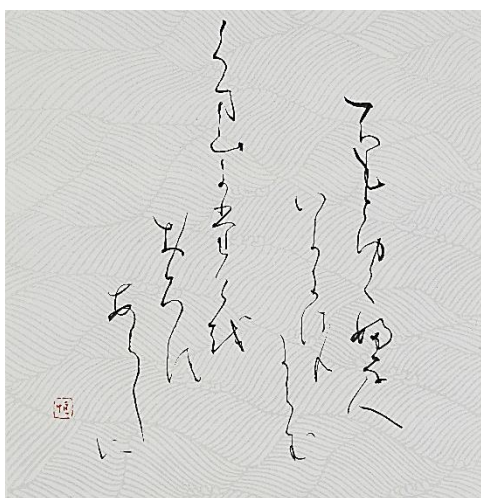
■主な出品作品



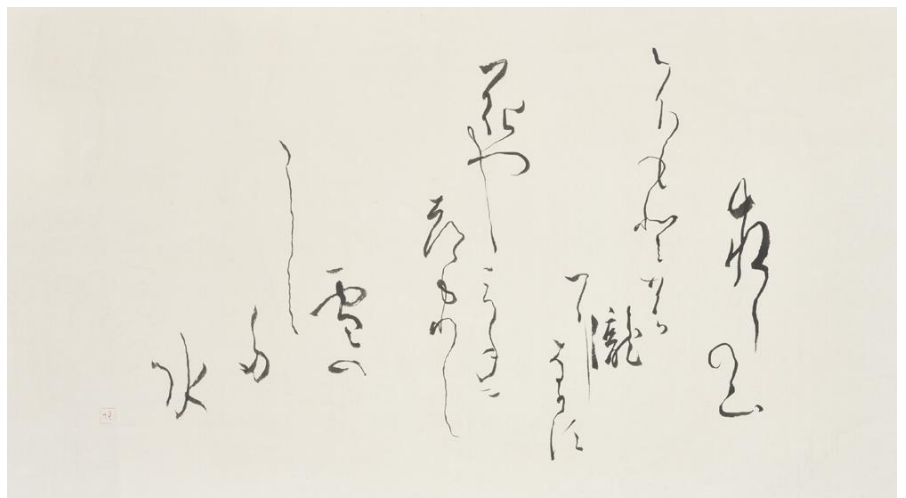
熊谷恒子《(臨書) 一条攝政集》1942年
大田区立熊谷恒子記念館所蔵



熊谷恒子《伊勢のにし(山家集)》1934年頃
大田区立熊谷恒子記念館所蔵



熊谷恒子《ふもとゆく(山家集)》1963年
大田区立熊谷恒子記念館所蔵



熊谷恒子《よしの山(山家集)》1985年
大田区立熊谷恒子記念館所蔵

■関連イベント

○ギャラリートーク

2025年4月26日(土)、5月4日(日)、5月24日(土)、6月21日(土)

各日11:00および13:00、参加費無料(入館料のみ)です。

※ギャラリートークの詳細は、当館ホームページまたは熊谷恒子記念館(03-3773-0123)へお電話にてご確認ください。

○期間限定 春の庭園公開

開催日時:2025年4月25日(金)~4月27日(日)、5月3日(土)~5月6日(火・祝)

各日9:00~16:30(入園16:00まで)

入園料:無料(入館料のみ)

■広報についてのお問合せ

本展をご紹介いただける場合にかぎり、作品画像をご利用いただけます。作品画像の使用に関しては、下記までお問い合わせください。

※作品画像のほか当館の外観の画像もご用意しております。

※使用に際しては、掲載内容・放映内容を事前に確認させていただきます。

※使用后、掲載誌および放映が記録されたメディアを見本として当館までご送付ください。

<お問合せ先>

大田区立熊谷恒子記念館 担当学芸員 飯島

〒143-0024 大田区中央4-2-1 TEL&FAX 03-3772-0680(大田区立龍子記念館内)

■交通

○JR京浜東北線 大森駅西口から

東急バス4番「荏原町駅入口」行乗車「万福寺前」下車、徒歩5分

○都営地下鉄浅草線 西馬込駅南口から

南馬込桜並木通り(桜のプロムナード)に沿って徒歩10分

